

尊光寺報

第116号

徳島県阿波市市場
町大野島字天神41
尊光寺

正信偈講座⑪

(赤い経本七巻)

普放無量無辺光

無礙無対光炎王

清浄歡喜智慧光

不斷難思無称光

超日月光照塵刹

一切群生蒙光照

・阿弥陀さまの十二の光・その四

数回前から阿弥陀さまの十二の光について話をしています。「あまねく、①無量②無辺光③無礙④無対⑤光炎王⑥清浄⑦歡喜⑧智慧光⑨不斷⑩難思⑪無称光⑫超日月光を放ちて塵刹を照らす。一切の群生、光照を蒙る」とある部分です。今回はそのうちの⑦歡喜と⑧智慧という光の意味を味わいましょう。

⑦「歡喜」とは「よろこび」の意です。親鸞聖人は「歡喜」とは、「いかり」を除き「阿弥陀さまのお救いを喜ぶ」光であり、私たちに「安らぎ」と「慰め」を与えて下さると示しています。

人生には様々な喜びがあります。誕生、就職、恋愛、結婚、長寿など、人それぞれ、長生きをされた方はより多くの喜びの場面に会われたことでしょう。しかしながら、残念なことに、我々の作り出したそれらの喜びは一時的なものであり、永遠に続くことはありません。悲しいことに、それらの喜びはいつしか色あせ、煩わしさや苦しみ、時には嫉妬の種となりますし、愛する者との別離は必ずやつてきます。

阿弥陀さまの光「歡喜」というのは、そのような一時の喜びではありません。阿弥陀さまが、どんなことがあっても必ず私を救おうと働かれていますことを知った喜びのことです。それは決して無くなることのない喜び、安心とも言えます。世間的な喜びが消えてしまい、悲しみに打ちひしがれている私の側に寄り添い、悲しみを受けとめて下さる阿弥陀さまがいっぱしやるのです。それは仏さまのお慈悲のはたらきであり、私たちの本当の安心、よりどころとなるのです。

⑧「智慧」とは「般若(サンスクリット語ではプラジュニヤー)」という言葉がもとで、物事を正しく見て平等に接する力という意味です。人間の「知恵」も生活する上ですばらしいものですが、そこにはどうしても、個人的感情、色眼鏡、えこひいきが入りますから、真の平等とは言えません。欲に振り回され真実の見えていない状態を

仏教では「無明(むみょう)」と言います。まさに暗がりの中で何が何処にあるのか分からない状態です。

阿弥陀さまの「智慧」の光は暗闇に惑う我々を照らしてくださるものです。光に照らされて見えてくるのは周りの状況だけではありません。それは欲まみれ、もしくは自己中心的な、または不安の中でたじろぐ己の姿でありましょう。仏教に出会うというのは、そのような私の真実の姿を知らされることに他なりません。智慧の光に出会うとは、凡夫とは他の誰のことでもなく自分のことであつた、そのような私を阿弥陀如来は救わずにはおれないと働かれていますと気づかされることでありましょう。

源信和尚千回忌法要 ―本願寺―

二月十四日、本山本願寺阿弥陀堂に於いて 源信和尚千回忌法要が天台座主・大導師のもと勤修された。

源信和尚は、恵心僧都源信といい、平安時代に比叡山で活躍した僧侶。寛仁元年六月十日(1017年「月9日」)、76歳にて示寂。著書『往生要集』は平安時代の浄土信仰を代表する書物で、当時の文化に大きな影響を与えた。親鸞聖人も、インド・中国・日本にわたつて念仏の教えを伝え、た七人の高僧のうちの一人に源信和尚を挙げている。「正信偈」に「源信広開一代教」(赤い経本29巻)と登場する方である。『源氏物語』に登場する「横川の僧都」のモデルとなるなど、在世時から著名であつたことが知られる。



▲天台座主が座られた礼盤
浄土真宗では見慣れない法具が並ぶ



▲中央に天台座主、手前に天台僧、奥に本願寺派僧が座る

法要は天台宗と浄土真宗本願寺派の合同法要として営まれ、天台座主が本願寺で導師を勤めたことも歴史上初めてとなった。お勤めは源信和尚が定めた「六道講式」をもとに編まれた。まず両宗派の僧侶が七条袈裟を着用して入堂するところから始まり、お供え物を受け渡ししながらお供えする伝供、天台

法要・行事のご案内

◎春季彼岸会永代経法要

【3月20日】 両日とも午後一時より、尊光寺本堂
【3月21日】 ※21日は仏教婦人会総会です。

彼岸の良き日に仏法を聞き共に念仏申しませう。
〈法話 本願寺派布教使 田村正教師〉

◎「ご本山・大谷本廟参拝団」

今回は「ご本山」伝灯奉告法要に参拝します。
約四十年ぶりのご本山の代替わり法要です。

【4月14日、15日 一泊二日】 費用3万5千円。
大谷本廟、本山法要参拝後、奈良宿泊、吉野観光予定。

【4月14日 日帰り】 費用1万5千円。
大谷本廟、本山法要参拝の後、鉄道博物館観光予定。

※おかげさまでほぼ満席です。

◎宗祖親鸞聖人降誕会

ならびに午後 門信徒総会
【5月1日】午前10時より、尊光寺本堂
※昼食の後、門信徒総会。

※昼食配膳のお手伝いも宜しくお願い致します。
宗祖親鸞聖人の誕生日法要です。法話は副住職。

◎徳島仏教婦人会連盟研修会

【6月27日】午前10時半より総会、午後1時より講演
場所 徳島あわぎんホール
講演 「終末医療と仏教 僧侶のいる病院」(仮題)

講師 山本成樹師(本願寺あそかビハール病院)
※どなたでも参加・聴講できます。問い合わせは尊光寺まで。

※費用 3千円(弁当代・バス費(お寺・あわぎんホール)
午後からの講演のみでも参加可。

◎孟蘭盆会法要

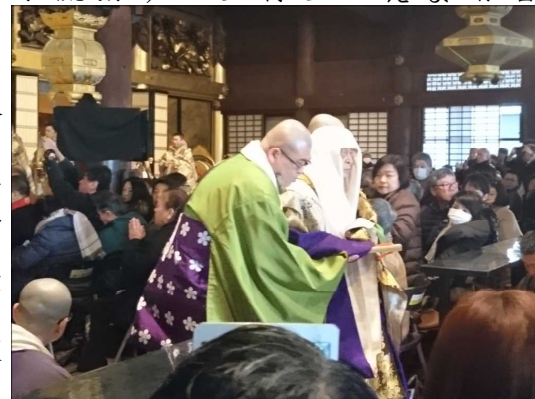
【8月15日】午後6時より、尊光寺本堂
※別途、家庭でのお盆参りの依頼はお早めに。

平成29年 年忌表

1周忌	平成28年
3回忌	平成27年
7回忌	平成23年
13回忌	平成17年
17回忌	平成13年
25回忌	平成5年
33回忌	昭和60年
50回忌	昭和43年
61回忌	昭和32年
100回忌	大正7年
150回忌	慶応4年
200回忌	明治元年
250回忌	文化15年
300回忌	文政元年
	明和5年
	享保3年

宗の声明、浄土真宗の声明、『仏説阿弥陀經』（赤い経本94卷）『十二礼』（赤い経本51卷）のお勤め、最後に参拝者全員で「恵心僧都念仏法語」を唱和した。両宗派僧侶の素晴らしい声の響きによつて、まさに浄土へのいざないと言える法要であつた。

浄土真宗の宗祖親鸞聖人は若い頃、比叡山で修行され、本願寺八代の蓮如上人の頃は比叡山と敵対し、本願寺は寺基を転々とす。また本願寺声明（お勤め）は天台声明にその源流があるなど、歴史的に両宗派には複雑なものがあつた。この度の合同法要は意義深いものがあつた。



▲退堂される天台座主

書院改修工事報告

書院改修工事は、本堂や庫裏との廊下を設置する付帯工事が二月十九日に完了し、改修工事はすべて無事に円成した。ここに多くの方のご懇念と、工事に携わつて下さった方々に甚深の感謝を申し上げます。



新しい書院は、藍染と柿渋で襖を仕立てた部屋がそれぞれ八畳、広間が十八畳と十二畳、畳廊下が十八畳あり、襖を取り外して一つの大きな広間としても使用できる。さらに板の縁廊下、小さなキツチ



ン、三つのお手洗がある。

昨年十二月の報恩講では真新しい書院において、御齋（おとき）仏事における食事（が当番によつて支度され、一同真新しい座敷で食事を頂いた。（左上の写真）

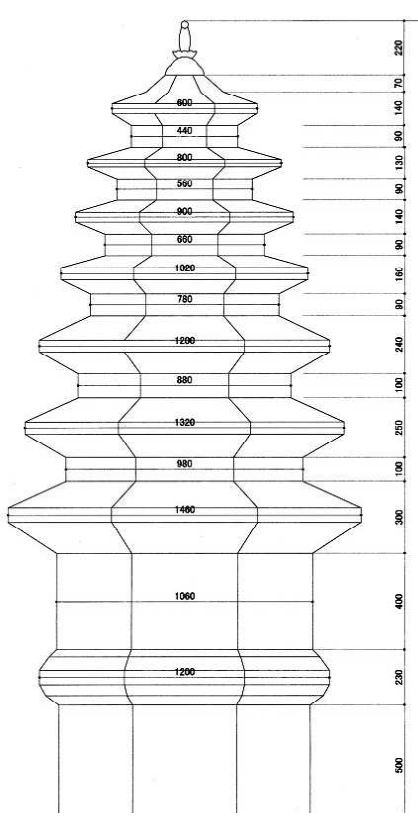
書院は報恩講の御齋（おとき）場や五月の門徒会の集所、お客僧のもてなし等で使う他、ご門徒の皆様も気軽に使つて頂きたい。他のお寺では、ヨガのお稽古やお花の発表会場など様々にお寺の建物が使用されているようだ。

書院周辺の庭園の整備、ならびに集合納骨墓の新設を進めるため、境内の工事はもうしばらくつづく予定。

集合納骨墓の「案内」

尊光寺では納骨堂の北隣に集合納骨墓を建立いたします。納骨堂預かりを希望されない方や、納骨堂ロッカーに入りきらないお骨などを納骨します。

デザインはアジア各地に見られる仏塔（お釈迦さまの骨を納める塔）のイメージをもとにしており、完成は夏頃の予定。



報恩講 阿波オーケストラの報告

昨年の報恩講（親鸞聖人をしのぶ法要）は12月22日・23日の二日にわたつて修行され、多くの方が参拝された。

布教使の季平博昭師よりあたたかいご法話を頂き、また余興として、阿波オーケストラのメンバー四名によつて弦楽四重奏がおこなわれた。クラシックの名曲から誰もが知る「ドレミの歌」まで幅広く演奏していただいた。最後には手拍子で参拝者全員ノリノリに。生後数ヶ月の子どもからお年寄りまでが共に、ありがたくも楽



しい報恩講の一時をお寺で過ごした。

阿波オーケストラは徳島大学生を中心に2014年に結成されたアマチュアオーケストラ。年一回の定期演奏会を行うとともに各地でコンサートを開催している。

お寺では報恩講の折や新しい書院を使った様々な催しを募集いたします。希望があればお声がけ下さい。

五ヶ寺連研をのぞいてみませんか。

鴨島町・石井町の浄土真宗本願寺派の寺院五ヶ寺が連続して講座を開いています。仏事作法や仏教の話を気軽に聞いてみませんか。副住職も講師の一人として共に学んでいます。

興味ある方はどうぞ気軽に副住職へ連絡下さい。

- 5月13日、19時半、仏事と作法（鴨島 西円寺）
- 7月6日、19時、法座お説教（鴨島 徳住寺）
- 9月16日、19時半、親鸞聖人の生涯（石井 西方寺）
- 11月11日、19時半、お釈迦様について（石井 光明寺）
- 1月20日、18時半、仏教讃歌（鴨島 西円寺）
- 3月10日、18時半、正信偈の解説（鴨島 徳住寺）

副住職担当、NHK文化センター

徳島教室の「案内」

各講座、受講生募集中

6回半年と13,478円

問い合わせは、

徳島駅前NHK文化センター

（電話 083-611-6881）



所在地/770-0832 徳島市寺島本町東3-13-1 徳島駅前 濱口ビル8F

● 仏教講座「歎異抄」を読む 月1回月曜午後1時半、4月10日、5月8日、6月12日、7月10日、8月21日、9月11日
「善人なをもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」で知られる『歎異抄』を読みながら親鸞聖人の教えを味わいます。

● 仏教講座「御文章」を読む 月1回金曜午前10時、4月7日、5月12日、6月9日、7月7日、8月4日、9月8日
「朝には紅顔ありて夕には白骨となれる…」本願寺八代蓮如上人が残した『御文章』を読みながら、仏教に触れてみませんか。

● 仏教講座「伝絵で学ぶ親鸞聖人」 月1回土曜午後1時、4月22日、5月20日、6月17日、7月8日、8月19日、9月16日
親鸞聖人の一生が画かれた『伝絵』を見ながら、親鸞聖人の生涯とその教えにせまります。

浄土真宗本願寺派
徳島仏教婦人会連盟総会
並びに門信徒研修会

【テーマ】 終末期医療と仏教 ―僧侶のいる病院― (仮)

【講師】 山本成樹 先生(本願寺あそかビハーラ病院)

【日時】 6月27日(火曜日) 10:30～総会、13:00～講演

【会場】 あわぎんホール(郷土文化会館)

【会費】 3000円(お弁当代・バス代を含む)

【参加申し込み・締め切り】 尊光寺へ 5月末日までに

※ 仏教婦人会会員以外(男性も)でも参加可能です。

※ 会員の皆様はお誘い合わせの上ご参加下さい。

※ 午後からの講演のみの聴講もご相談下さい。

医療×仏教

山本成樹 先生の活動



お坊さんのいるホスピス(朝日テレビ キャスト)
僧侶がいる病院(毎日新聞掲載記事)
議論で決まる緩和ケア(産経新聞掲載記事)
医療現場が僧侶育てる(産経新聞掲載記事)
本願寺あそかビハーラ病院 常駐僧侶

「なぜ自分だけが病気になったんだろうか」

「何のために今まで生きてきたんだろうか」

「死ぬのが怖い」「死んだらどうなるのか」

などの、病気や死に直面した人間存在の危機から生まれる苦悩があります。そのような気持ちを聴き、「いのち」を見つめなおす手伝いをされています。

●終末期医療、緩和ケアの現場で、患者は宗教に何を求め、
宗教者はどのように関わっているのかお話し頂きます。



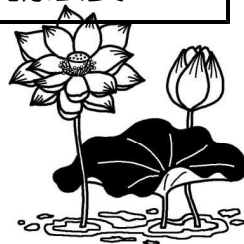
2017（平成29）年
尊光寺 行事案内



3月20日	午後 1時	春の彼岸会永代 経 法要 ひ がん え えいたいきよう
3月21日	午後 1時	春の彼岸会永代 経 法要 ひ がん え えいたいきよう (仏教婦人会総会)
4月14日～15日		ご本山参拝旅行
5月 1日	午前10時 続いて午後	宗 祖親鸞 聖 人降誕会法要 しゅう そ しんらんしようにんごうたん え 門信徒総会 もんしん と そうかい
6月27日	午前10時半	徳島仏教婦人連盟総会
	(場所あわぎんホール) 午後1時	講演「終末期医療と仏教－僧侶のいる病院－」
8月15日	午後6時頃	孟蘭盆会法要 う ら ぼん え
9月23日	午後 1時	秋の彼岸会永代 経 法要 ひ がん え えいたいきよう
9月24日	午後 1時	秋の彼岸会永代 経 法要 ひ がん え えいたいきよう (仏教婦人会老人ホームお接待)
12月22日	午後 1時	報恩講法要 ほうおんこう
	午後 6時	報恩講大速夜・御伝 鈔 拝読 ほうおんこうおおたい や ご でんしょう
12月23日	午前10時	総永代 経 法要 そうえいたいきよう
	午後 1時	報恩講御満座・御伝 鈔 拝読 ほうおんこう ご まんざ ご でんしょう
12月31日	午後11時40分	除夜会（除夜の鐘） じよ や え
1月 1日	午前 0時	修 正 会 しゅしょう え
毎月15日	午後 夕刻	宗 祖月忌速夜法要 しゅうそがつきたいや
1月 9日～16日		ご本山御正忌報恩講法要

その他の行事は随時お知らせいたします。

皆様のご参拝をお待ちしております。



仏教講座のご案内

ごぶんしょう 仏教講座「御文章」を読む

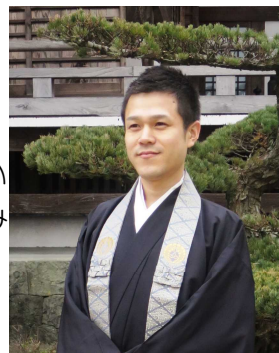
「朝には紅顔ありて夕には白骨となれる身なり。」

初めての方にも分かりやすく親しみやすく、蓮如上人の味わい深いお手紙「御文章」を読みながら、仏教思想・念仏の教えに触れてみましょう。

講師：尊光寺副住職 赤松 信映

毎月1回金曜（4/7、5/12、6/9、7/7、8/4、9/8、…）

10:00～11:30 （6回13,478円）途中からの受講も可



たんにしょう 仏教講座「歎異抄」を読む

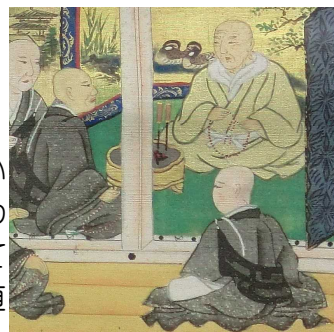
「善人なほもて往生をとぐ。いはんや悪人をや。」

「歎異抄」には浄土真宗の宗祖親鸞聖人の言葉が記録されています。荒廃した時代の中で、真実を求め自らの煩悩に向き合われた親鸞聖人の言葉は、今もなお多くの人々の胸をうち続けています。親鸞聖人の言葉に触れ、今を生きる我々の姿を問い直してみましょう。

講師：尊光寺副住職 赤松 信映

毎月1回月曜（4/10、5/8、6/12、7/10、8/21、9/11、……）

13:30～15:00 （6回13,478円）途中からの受講も可



えでん 新仏教講座「絵伝で学ぶ親鸞聖人」

親鸞聖人の曾孫が作成した絵巻物「親鸞聖人伝絵」。その絵伝を読み解きながら、親鸞聖人の生涯と教えにせまります。

講師：尊光寺副住職 赤松 信映

毎月1回土曜（4/22、5/20、6/17、7/8、8/19、9/16…）

13:00～14:30 （6回13,478円）途中からの受講も可



詳しくは【NHK文化センター徳島教室】までお問い合わせ下さい。

NHK文化センター徳島教室

TEL **088-611-6881**

HP www.nhk-cul.co.jp

NHKカルチャー徳島

検索



70歳以上・中学生以下は入会金無料



所在地/770-0832 徳島市寺島本町東3-13-1
徳島駅前 濱口ビル8F